

特集 未来につなぐ 新田開発の物語

昔むかし、約300年前の江戸時代、市の中心にあった深野池が広い田んぼ(新田)に開発されました。その新しく作られた田んぼが、今の大東市の基礎になっています。今回の特集では、深野池の新田開発の歴史とその遺産を生かした取り組みについて紹介します。



平野屋新田会所跡(平野屋1丁目)



泉小学校の東側に
不思議な石が積まれて
いるのを知ってる？
これは何のために
作られたんだろう？

これは、千石蔵と呼ばれる米蔵の基礎の一部です。元は右の写真のような建物がありました。ここには平野屋新田会所という事務所があり、田んぼの管理やお米の保管などが行われていました。



千石蔵(昭和30年代頃)



市民サポーター
水永八十生さん(平野屋1丁目在住)



300年前に開発された田んぼの広さはどれくらいかな？
田んぼは南北約4.5kmあり、広さは約325ヘクタールです。
田んぼの区域は、甲子園球場がいくつ入る広さでしょう？

- 1 約30個分 2 約85個分 3 約200個分

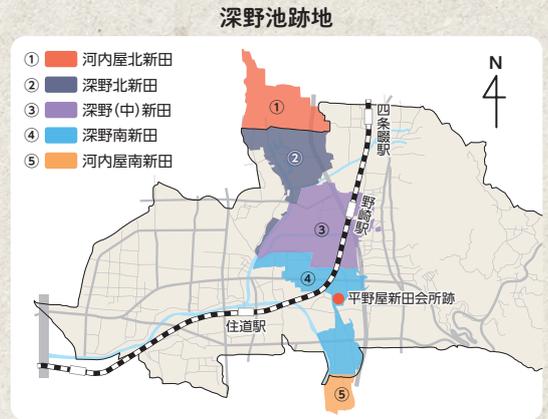
答えは
左ページにあるよ！





Q 新田開発はなぜ行われたの？

A 宝永元年(1704)、幕府は、氾濫の多い大和川の流れを人工的に変える大工事を行いました。これにより干上がった深野池の跡地に、**甲子園球場約85個分の**広い新田が生まれました。この新田は5つのエリアに分けられ、享保6年(1721)、深野南新田(平野屋・谷川・南新田地区)と河内屋南新田(東大阪市元町地区)が大坂の両替商・平野屋又右衛門の所有地となり、新田の管理事務所として平野屋新田会所が設置されました。



Q 平野屋新田会所って何するところ？

A 新田会所は新田の管理全般を行います。年貢の集積、武家の接待などに加え、災害時には住民の避難所にもなりました。平成20年に取り壊されるまで、平野屋1丁目には敷地面積2000坪以上の平野屋新田会所の広い屋敷が残っていました。



会所の表長屋門(平成16年頃)

Q 平野屋新田会所は今どうなっているの？

A 現在は千石蔵と道具蔵の基礎と船着場の階段、坐摩神社の本殿だけが残っています。特に坐摩神社の本殿は、現存する唯一の平野屋新田会所の建物です。屋根の前方が長く伸びる建築法(流造)を用いています。平野屋又右衛門が今の大阪市にある坐摩神社から神様を迎え、会所の屋敷神となり、後に深野南・河内屋南新田の守り神となりました。

市民サポーターが大正7年の写し絵図や発掘調査資料を基に作成した、平野屋新田会所の全体想像図を見ると、全体は広大で、残っているのはほんの一部であることがわかります。



坐摩神社本殿



想像図(平野屋新田会所市民サポーター会議作成)



千石蔵(米蔵)基礎(平成20年撮影)

こんなところにも、あんなところにも 新田開発の歴史を物語る遺産があるよ！

会所跡周辺には、新田開発の歴史を物語る貴重な遺産が今も多く残っています。これらの遺産について、地元の皆さんなどのお話と一緒に紹介します。

かみなり樋門(深野南町)



表紙の写真は
ココ！



水があふれて洪水になるのを防ぐため、大雨になると当番制で樋門を閉じていました。当番の時は、「雷が落ちても絶対に水門を閉じろ」と言われることから、かみなり樋門と呼ばれていると聞いたことがあります。

80代 地元住民



農民感謝碑(平野屋1丁目)



会所には避難所の役割もあり、明治時代に会所の災害救助活動に感謝した住民が建てたと言われています。会所跡は泉小学校の東側にあり、記念碑は会所跡の隣の大きなクスノキの下にあります。小学生の頃、放課後にこっそり忍び込んで、大きなクスノキの下でよく遊んでいました。

40代 泉小学校卒業生



又の境界石(平野屋1丁目)



よく見ると「又」の文字が刻まれています。これは最初の地主平野屋又右衛門の「又」で、ここから先は新田の土地であるという証しとして建てられたと考えられます。

30代 生涯学習課職員



どんばの伏越樋(平野屋1丁目)



鍋田川の水は近隣に昔から住んでいた村の人たちが使用しており、新しくできた深野南新田は鍋田川の水を使わせてもらえなかったそうです。そこで鍋田川の下に、伏越樋というトンネルを作ることで、川の下に水路を通し、別の川からの水を引きました。当時は水の利用を巡る争いが絶えなかったそうです。

70代 市民サポーター



残念石(平野屋1丁目)



よく見るとし字と丸の印が刻まれています。そして同じような印が刻まれた石が大坂城に使われています。これは徳川大坂城築城の際に生駒から石の切り出しを命じられた大名の印で、大坂城の石垣になり損なった、「残念石」が、会所の庭石として使用されていたのではないかと考えられています。

70代 市民サポーター



ほかにも水路や石造物などが今も残っています。
巡ってみましょう。

新田開発の遺産を保存するために 市はどんなことをしているの？

平成22年、市は、千石蔵(米蔵)・
道具蔵・船着場の跡が残る敷地を
公有化し、平成31年に市指定史跡
としました。



米蔵には会所が管理する田んぼ全域の年貢米約
800石が納められていたと考えられます。江戸幕
府から時代は移り、昭和30年頃までは政府に提
供する米を会所の敷地内で検査していたそうで
す。当時の事を覚えている人が身近にいるかもし
れませんね。



道具蔵跡



船着場の階段(地中に保存)

新田開発の遺産を守り、歴史を活用する取り組み



市民サポーター主催の見学会の様子

平野屋新田会所市民サポーター

平成27年に発足した平野屋新田会所市民サポーター
会議は、見学会やパネル展、ガイドマップ作成などの
活動を通して、新田開発の遺産の魅力発信に取り組
んでいます。関心のある人はぜひ参加してください。

- 活動日=毎月第2月曜日午前10時~正午
- 場 所=市民会館5階教育委員会 他

市民サポーターが制
作したガイドマップ。
散策モデルコースなど
を写真たっぷりで紹
介しています。



市内公共施設
で配布中、二次
元コードから
読み取りも可

市民サポーターの世良悦子さん(平野屋2丁目在住)

日々、何気なく見ている風景にある、長い歴史や成り立ちを知ることは大
きな発見であり、喜びです。得意なことを生かして無理なく参加できる
だけでなく、メンバーの温かい励ましがあることで、活動を続けられてい
ます。これからも、平野屋新田会所跡と周辺の魅力を発信していきます。



今年は「平野屋新田」の成立から300年となります。これを記念して今年の秋には、歴史民俗資料館の企画展やシンポジウムなどを開催する予定です(詳細は広報誌9月号に掲載予定)。また、新田開発の遺産を、市のまちづくりに生かすため、市と学識経験者・地域住民らによる検討会議が3月からスタートしました。これからも、新田開発の遺産を生かした取り組みにぜひご注目ください。

園生涯学習課 ☎ 870-9105